

三本のやかん

凡例。▲先手：愚者（ぐしゃ）、△後手：似非（えせ）有識者

▲あのねえ。センセよ。聞いてもいいかい？

△ああいいよ。

▲世の中、「金あまり」なんて言われてるけど、なんでこっちにまわってこねえの？

△ワシもだよ。どこかの銀行の帳簿にデータとしてたくさん死んでるみたいだよ。

▲金がデータ？「出ーた」じゃねえのか。なんで出てこねえんだよ。しかも死蔵金？

△どうやら、市中の金が、市中の銀行経由してどんどん吸い取られる仕組みらしいよ。

▲「金融緩和」って何よ。世の中に金たくさん出そうって話じゃないの？

△あれは、金融の「閑話」本気（マジ）で当てにすると痛い目に遭う鴨（かも）ね。

▲それでまわってこねえのか。どこにあるの金（かね）？ホントにないの金（かね）？

△金はないが金物はあるよ。でも、最近金物屋も見かけないね。ホームセンターか？

▲その金物も最近見かけないよ。「金ドライ」最近見たのはドリフのコントの再放送だ。

△熱湯風呂の脇にも氷の入った「金ドライ」あったね。懐かしいよ。

▲あおう。金物の「やかん」は、なんで「やかん」って言われるようになったの？

△いい質問だねえ。おめえは本当に斬の判る奴だね。答えようがあるよ。昔々「やかん」は「水わかし」って呼ばれていたんだ。ある時、お武家様が合戦で兜の替りにこれを被って戦いに臨んだ。すると敵方の放った「矢」が、お武家様の被っていた「水わかし」に当たって「カン」。「矢」が当たって「カン」。それで「矢カン」。

▲それは知ってる。斬のネタ。それで、なんで「矢」なの？

△「行員矢の如し」って言うだろう。行員（銀行員）も金偏の人達。金物繋がりだよ。

▲ずいぶん、無理矢理こじつけた感じがするけど。

△無理矢理の「矢」で「矢カン」。これが一本ならピツリ決まりだが、三本となると。

▲えっ。なんで三本なの？

△昔々、那須与一が放った矢を拾い集めて、それが毛利元就に継承され、今世に残っていたのが三本の矢。現物はなくなって斬が残った訳よ。で、最近どこからか放たれたその三本の矢が俺達庶民に直に中（あた）って「アカン・イカン・矢カン」でハイそれまでヨ。

▲痛いねえ。とんだとぼっち。こっちは死にそうだよ。なんとかしてくれよ。

△すまんが、ワシにはどうにもできん。ワシも被害者。

▲どうして一本に纏めなかったの？一本に纏めたら折れずに結果違ってたかも。

△それがねえ。一本に纏めたとこで、どうにもねえ。そもそも標的が違うから。

▲あつ！そうか。的ハズレか。そうだよ。えっ！初めから俺達狙ってたの？